

令和5年度  
由利本荘市 総合教育会議  
資 料



由利本荘市教育委員会キャラクター「学ぶん」

令和5年10月3日（火）



# 部活動の地域移行に向けて

～部活動を取り巻く現状と検討課題～

令和5年10月  
学校教育課

## I 部活動を取り巻く現状①

- (1) 生徒数の減少による深刻な部員不足の進行  
→学校単独チームが困難＝合同チームの編成（日常の練習に支障）

【参考：市内中学校の状況（9月現在の部員数）】

○秋季大会合同チーム

・野球部

〔岩城(7)・東由利(3)〕〔西目(6)・由利(5)〕〔本荘東(8)・仁賀保〕

・男子バスケットボール部

〔岩城(5)・象潟〕

・女子バスケットボール部

〔本荘北(5)・東由利中(2)〕

・女子バレーボール部

〔矢島(3)・岩城(4)〕〔鳥海(1)・金浦〕〔本荘東(4)・仁賀保〕

・ソフトボール部

〔本荘北(3)・本荘東(1)・矢島(3)・西目(7)・象潟〕

・サッカー部

〔本荘南(7)・西目(12)〕〔仁賀保・象潟〕

○総体後廃部(クラブチーム化)

・大内中男子バスケットボール部

・大内中女子 //

## 1 部活動を取り巻く現状②

(2) 部活動の休部、廃部による生徒の体験格差の拡大

→希望する競技・活動が所属校に未設置

(3) 生徒数減少＝学校規模縮小＝教員数の減少

→部活動指導が教員にとって大きな業務負担に  
教員の長時間勤務の大きな要因＝改革を推進

## 2 県の取組

(1) 地域運動部活動推進事業

→地域移行のモデル地域として試験的に実施

- ・令和4年度→大館市、羽後町
- ・令和5年度→大館市、能代市、羽後町

(2) 部活動指導員の配置

- ・R5 予定83名 本市6名（市の要望に対して県が割当て数を調整）
- ・県の目標は（将来的には）各中学校に1名を目標

(3) 秋田県における部活動の地域移行推進計画（Ver.1）

（令和5年8月30日付けで各市町村に通知）

【県の目標】

- ・R5 県推進計画の策定  
総括コーディネーターの配置による市町村への助言・支援
- ・R6 広域的な指導者の確保・派遣
- ・R7 指導者養成研修の充実

【市町村の目標】

- ・R5 協議会の設置
- ・R6 推進計画の策定
- ・R7 一つ以上の地域クラブ活動の段階的開始

### 3 市の取組①

(1) 部活動指導員(\*)の積極的な採用

\*担当教員に代わり指導、大会引率等が可能な外部指導者

【参考：市内中学校の状況】（5競技6名）

- ・本荘南中：ボート部
- ・本荘東中：柔道部
- ・矢島中：ソフトボール部
- ・鳥海中：卓球部
- ・大内中：卓球部
- ・矢島中、鳥海中：スキー部

○教師の業務の負担軽減、生徒への専門的な技術指導の充実

(2) 学校教育課、文化・スポーツ課担当者による実務者会議の開催

- ・「情報交換会→協議会」の段階的な検討の場の設置を確認

(3) スポーツ少年団や部活動の指導経験者による地域移行に向けた情報交換会の開催

- ・地域移行に向けた動き
  - ・今後の方向性
  - ・課題や要望
- 等の情報共有

### 3 市の取組②

(4) 取組を検討する「地域移行協議会」の設置

- ・国や県の方針を踏まえた市の方針や方向性の検討
- ・国や県の推進計画等を参考にした推進計画の策定
- ・方針の実現に向けた地域における関係者の連携・協働体制の検討
- ・学校部活動の地域連携・地域移行に向けた課題の洗い出し
- ・地域移行後の取組状況の把握と課題に対する協力体制の構築
- ・運営団体・実施主体の検討、設立（必要に応じて）
- ・指導者の発掘、確保（兼職兼業による教員の活用を含む）の検討
- ・家庭への支援方策の検討

など（県の推進計画での例示）

【構成メンバー（予定）】

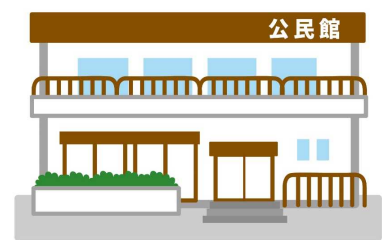
- ・学校教育課
- ・文化・スポーツ課
- ・市スポーツ協会
- ・校長会、教頭会
- ・PTA
- ・地区中体連
- ・スポーツ少年団

(5) 協議会の方針を受けた、中学校体育連盟、市の関係部局、スポーツ協会、地域の指導者等との連携推進

生涯学習課

## 公民館での生涯学習事業の推進 ～ 今後の公民館のあり方について ～

令和5年10月3日  
由利本荘市総合教育会議



### ○本市の公民館

- 〈組織〉 ・公民館8、各地区の公民館10 （生涯学習課、各教育学習課）
- 〈体制〉 ・公民館運営審議会、町内公民館長会、生涯学習奨励員、生涯学習ボランティアなど
- 〈活動〉 ・社会教育・生涯学習を柱とした教室や行事の実施 ※231事業（R5由利本荘市の教育）  
・各団体やサークル活動の支援等  
・地域の活動拠点施設として、各団体による利用等

- ・中央公民館（子吉、小友、石沢、南内越、北内越、松ヶ崎）
- ・矢島公民館
- ・岩城公民館
- ・由利公民館
- ・大内公民館（下川大内地区館、上川大内地区館）
- ・東由利公民館
- ・西目公民館
- ・鳥海公民館（直根、笹子）

## ○公民館事業での課題

人口減少や少子高齢化、高度情報化の急速な進展などの社会情勢の変化を背景に、地域における社会教育や公民館に求められる役割も変化し多様化している。

- 人口減少や少子高齢化 …… 参加が少ない。指導者の高齢化。
- 高度情報化 …… 多くの情報がその場ですぐに手に入る。
- ニーズの多様化 …… 内容、日時、世代などが異なる。

## ○これからの公民館事業として

- |                    |   |
|--------------------|---|
| ①特色ある事業の積極的な推進     | 一般的な事業 → 地域特有の事業                          |
| ②自主学習への支援強化        | 学習の提供 < 自主活動の支援                           |
| ③民間力・地域力を活かした事業の推進 | 地域＋行政 → 地域＋民間＋行政                          |
| ④情報化社会を利用した事業の推進   | 開催案内 → 開催案内・経過・報告<br>SNS等の有効活用・次につなげる情報発信 |
| ⑤地域間の連携強化          |   |

→ 単館で実施していた事業の協力  
→ 協力して行うことでスタッフの充実をはかる



社会教育委員による協議

- 特色ある事業の積極的な推進 地域の行事、歴史、文化、芸能、郷土食  
・“ここだけ”の“特別”を創る事業のブランド化
- 自主学習への支援強化 自ら学ぶ活動への支援  
・知識や技術を持つ方を紹介。場所、備品等の提供。
- 地域＋民間＋行政（民間力、地域力を活かした事業の推進）  
各団体・企業・県立大学・高校との共同  
・企画力や知識、技術の活用、連携協定締結企業との共同 ・GCF(ガバメントクラウドファンディング)の創出
- 情報化社会を利用した事業の推進 ・開催案内 →次につなげる情報発信  
・デジタル公民館の開設
- 地域間の連携意識の強化

新しい視点と発想力

次代を担う人材の発掘と育成

地域住民、職員ともにスキルアップ

例えば...

事業を連携して計画・実施する体制づくり

新しい原動力  
につなげる

## 住民の不安は...？

多様な学習機会を提供してくれる公民館  
活動の場・情報の発信をしてくれる公民館

失われる  
のでは？



### 地域における公民館

地域における社会教育・生涯学習の拠点施設  
地域住民の最も身近な地域コミュニティの拠点・憩いの場・防災施設

・・・ 活動の場として、情報の発信の拠点としての役割  
人と人をつなぐ「ハブ」としての役割

重要な  
役割



## ○今後の公民館事業の取り組みとして…

- 地域コミュニティを成り立たせるための事業。
- 体力がなくなっている地域を元気づける事業。
- 地区の行事と公民館事業との連携。地区の行事の支援。
- 新しいスポーツの普及事業。 例え「モルック」
- 地域おこし協力隊を活用した事業。
- 社会人のリカレント教育（学び直し）などへの支援事業。
- 子ども向けの体験から学び、成果へと繋げる事業。
- 人財づくりのための事業。
- 県立大学生らを活用し、本市の魅力を発信してもらえるような事業。 …等々



新型コロナウイルスを契機にして広まったオンラインの良さ  
対面ではないと得られないリアルな人とのつながりの大切さ



**アナログ+デジタル=ハイブリッドの公民館として**